わんりぃ

292号
2024/4

日中文化交流市民サークル‘わんりぃ’
町田市三輪緑山 2-18-19　寺西方
〒195-0055　☎：044-986-4195
http://wanli-san.com/
E メール:t_taizan@yahoo.co.jp

雨の中を空中散歩：中国湖南省の張家界大峡谷玻璃大橋は、世界で最も高くて長いガラスの橋。全長約 430 メートル、地上約 300 メートルの高さに架けられています。透明なガラスでできているので、傷がつかないよう観光客は布製の靴を履いて渡ります。この日はあいにくの雨。ガラスの橋に色とりどりの傘の花が咲きました。雨で下がはっきり見えなかったためスリルを味わえなかったのが残念。　（2017 年 9 月　世界遺産・武陵源（湖南省）の旅にて　高橋節子）

‘わんりぃ’ 2024 年 4 月号の目次は 18 ページにあります

「寺子屋・四字成語」雑感-71

qiān jūn yī fā
千 鈞 一 发

中国で見つけた“有名小学校入学準備の為の”絵本から

文と訳・有為楠君代

今月の言葉、日本の四字成語にはありません。この成語の中の「発」は、髪の毛の「髪」の意味です。中国では簡体字を作る時に、発音が同じで違う文字を一つに纏めてしまったので時々戸惑うことがありますが、「发」もそんな字の一つです。

・➢・➢・➢・➢・➢

漢の高祖劉邦が死んで、子供の劉盈が皇帝の位を継ぎました。呉王劉濞は密かに諸侯と連合して謀反を企てました。

その時、枚懲という大臣がいて、謀反の機会は未だ熟していないと判断し、劉濞を諫めて言いました:「現在の形成は極めて危険で、まるで一本の髪の毛で千鈞のものを吊るしているようなもの、上には頂が無く、下には底なしの深淵が控えています。この謀反はそんな危険なものです」

挿絵：満柏画伯

しかし呉王はこの忠告を耳にも留めず、六侯国と手を組んで謀反を起こしましたが、結果は、呉国と他の六国は全て滅ぼされてしまいました。

・➢・➢・➢・➢・➢

言葉の意味：一鈞は 30 斤、千鈞、つまり 30000 斤（1.5 トン）のものを髪の毛一本で吊るしている。非常に緊迫している様子の喩え。

言葉の使い方： この千鈞一発の緊迫した状態で、人民解放軍の兵士が一人水中に入り、彼を救助した。

・➢・➢・➢・➢・➢

この本に書いてある通りに訳すと、上記のようになります。しかしこれにはちょっと説明が必要です。この話を聞くと、2 代皇帝恵帝の時に劉濞が反乱を起こしたように聞こえますが、実際は違います。

BC202 年に、中国初めての統一国家・秦滅亡後の混乱を制した劉邦が、統一国家・漢を建国しました。劉邦は、秦の失敗に鑑みて、直轄地には秦と同じ郡県制を布き、功臣や親族・諸侯には国を与え統治を任せる封建制を布きました。

BC195 年に劉邦が死ぬと、子の劉盈が恵帝となりますが、実権は呂皇太后が握り、建国の功臣や劉邦の親族劉氏を次々と失脚させ、代わりに自身の親族呂氏を据えて、権力を掌握しました。2 代皇帝恵帝が死ぬと、呂后は自分の思い通りになる年少の皇帝を擁立し、言うことを聞かなくなると廃位して、新たな皇帝を立てたので、3 代、4 代皇帝は諡号もなく前少帝、後少帝と呼ばれるだけです。

紀元前 195 年に呂后が亡くなると、呂氏の粛清を免れた功臣や劉氏の親族が力を合わせて、呂氏を次々と粛清し、ようやく劉氏の漢王朝を取り戻しました。この時即位したのが 5 代皇帝文帝（劉恒）で、文帝は制度改革を極力避け、庶民生活の安寧と国内情勢の安定を図りました。文帝の後を継いだ子の 6 代景帝（劉敬）も文帝の施策を原則引き継ぎ、「文景の治」として後世から評価されています。

景帝が徐々に朝廷の力を強めようとするのに反発して、BC154 年、呉王（劉濞）の呼びかけに 6 国が呼応して反乱を起こしました。これが「呉楚七國の乱」で、この乱を鎮圧するのに 6 カ月を要し関連七國を取り潰して直轄地にしてからは、朝廷の権力が一段と強くなりました。

呉楚七國の乱と 2 代恵帝（劉盈）の即位とでは、50 年も隔たっています。子供向けと言っても、この本の記載は正確とは言えません。私の手許にある別の子供向け絵本では、「呉楚七國の乱」を景帝の時代と教えています。やはり、この本の記載には異議を唱えなければいけませんね。因みに、この言葉の出処は「列子・仲尼編」だそうです。

日译诗词［漢詩の日本語訳］(39)

詩経『黍離』の嘆

桜美林大学名誉教授　植田渥雄

周王朝12代目の幽王（在位前781～前771）は悪逆無道の暴君でした。国政を顧みず、日夜、美女褒姒を相手に遊興に溺れ、贅の限りを尽くしたあげく、西方から侵入してきた異民族犬戎に殺害され、当時の首都鎬京（後の長安、今の西安）は廃墟と化してしまいました。後を継いだ平王は、やむなく都を洛邑（今の洛陽）に移しますが、王室の権威は地に落ち、これより群雄割拠の時代が始まります。洛邑は鎬京よりも東にあったので、それまでが西周、それ以後は東周と呼ばれています。東周はまた春秋戦国時代とも呼ばれ、混乱の世は秦の始皇帝が天下を統一するまで500年以上も続きます。

今回取り上げる『黍離』は、ある東周の高官が旧都を訪れた折、かつての宮殿の跡が一面の畑地に変わっているのを目の当たりにして、嘆き悲しんで作ったと伝えられています。またこれに類する状況を〈黍離の嘆、または黍離麦秀の嘆〉と言うこともあります。

但し、この詩の解釈には諸説があって、これまで多様な解釈がなされてきました。必ずしも定説があるとは言えませんが、その中の一説を取って和訳してみました。

またこの詩は三つの段落に分かれていて、段落ごとの構成にも見るべきものがありますが、紙面の都合で最初の一節だけを取り上げることにします。

shǔ lí
黍 离

shī jīng guó fēng　wáng fēng
诗 经 国 风（王 风）

bǐ shǔ lí lí　bǐ jì zhī miáo
彼 黍 离 离　彼 稷 之 苗

háng mài mǐ mǐ　zhōng xīn yáo yáo
行 迈 靡 靡　中 心 摇 摇

zhī wǒ zhě　wèi wǒ xīn yōu
知 我 者　谓 我 心 尤

bù zhī wǒ zhě　wèi wǒ hé qiú
不 知 我 者　谓 我 何 求

yōu yōu cāng tiān　cǐ hé rén zāi
悠 悠 苍 天　此 何 人 哉

＊王风＝『詩経』に収録された洛邑周辺の歌。
＊黍＝モチキビ。
＊离离＝作物などが盛んに育つさま。
＊稷＝キビ。「黍稷」という言い方があり、何れもキビの類の総称として使われる。
＊靡靡＝フラつくさま。
＊悠悠苍天＝遥かに居ます天の神よ。天を仰いで嘆きや苦しみを訴える言葉。
＊何人＝何人。これが具体的に誰をさすかによって詩の解釈は大きく変わるが、ここでは幽王説を取る。洛陽で存続する周王朝を憚って明言できなかったと考えられる。

〔訓読〕

黍離

詩経　国風（王風）

彼の黍離離たり　彼の稷の苗
行き邁きて靡靡たり　中心揺揺たり
我を知る者は　我が心憂うると謂う
我を知らざる者は　我何をか求むると謂う
悠悠たる蒼天　此れ何人ぞや

〔和訳〕

黍離

詩経　国風（王風）

都廃れて　キビの苗生い
足取り重く　心は揺れる
我を知る者　我に謂う
汝が心は憂うるなりと
知らざる者はかく問わん
何を求めて汝は来ると
遙かに仰ぐ蒼天よ
此れ何人が故なるぞ

河南省或いは「中原」雑感―(40)

4年ぶりの河南省(つづき)

文と写真＝村上直樹

去る2月25日に日本河南同郷会と日本河南総商会の共催による「2024年河南同郷懇親会及び龍年新春交流会」が200名近い参加を得て開かれ、私も縁あって参加した。会場は亀戸駅前の中華料理店「九龍城」の2階。「九龍城」と言えば香港の旧スラム街の名称、という訳で、ネット上には「怪しさ100%！亀戸にある不審な中華料理店『九龍城』に潜入」なる記事も出ている(『カメイドタートルズ』)。ここの2階は広いステージがあり、奥には個別に仕切られたVIP席もあるなど、中国の映画やテレビドラマの舞台を思わせる。実際、一部の部屋は襲撃される中国マフィアのアジトとして、撮影にも使われたそうだ。

河南同郷会の懇親会は、型通りのあいさつと乾杯が終わると独唱、古箏演奏、爵士舞(ジャズダンス)、ベリーダンス、四川の変面など地方色・国際色豊かな余興が続き、とくに河南省関連では豫劇(伝統的地方劇)随一の名優・常香玉が唱ったことで知られる「誰説女子不如男」(女が男より劣っているなんて誰が言った？)も披露された。豪華賞品が当たる抽せんも行われ、日本式の三本締めでお開きとなった。

来賓としては全日本華僑華人社団聯合会、日本中華総商会をはじめ、日本江蘇総商会、浙江総商会、天津同郷会、安徽聯誼会等の関係者が招かれていた。日本における河南省出身者の結束を図るとともに、他の中華系友好団体との間の結びつきも一層深まることになる。なお、私などはこの新春交流会も十分盛大だと感じたが、福建省、江蘇省などの出身者に聞くと彼らによる同じような会は規模が桁違いで、豪華ホテルを会場に開かれるそうである。

さてここからは先月号に引き続き、昨年末(12月22日～31日)に4年ぶりで訪れた河南省での見聞を綴ることにしたい。今回の旅ではいくつかの博物館・記念館を参観したが、河南省とくに鄭州で絶対にはずせないのは、やはり「河南博物院」であろう。伝統文化の保護・継承を重視し「博物館」活動の充実を目指す現政権の下、「博物館頭条(ヘッドライン)」というメディアが選ぶ全国「100強博物館」では「河南博物院」は第6位につけている(2022年。第1位は故宮博物院)。初めてではないが、今回も26日に行ってみた。

前回書いたように、この日は午前中に「鄭州商都遺跡博物院」を参観し、その後、最寄りの「鄭州文廟」駅から地下鉄3号線に乗り「東大街」駅で2号線に乗り換えて「関虎屯」駅で降りる。途中「王強・老四廠烩麺」という店で昼食をとった。鄭州名物の烩麺は羊肉、海鮮など通常は数種類から選べるが、この店は一種類のみ、しかも私には初めてのカレー味だった。店は繁盛している様子だった。

河南博物院に着いてみると、ここも入館には基本的に微信(WeChat)を使った身分証と中国の電話番号によるスマホ登録が必要であった。ただし、人間が対応する窓口で外国人だと告げると、特別扱い(？)で入館が認められた(入館は無料)。手荷物検査を通過して午後1:30ごろ中へ入る。写真は入口正面のモニュメントである。人が両手で2頭の象を押し広げるよう支えている。これは象で象徴される野生世界が、ここ中原から人の手によって文明化されたということを表している。同時に、河南省の略称である漢字「豫」は左側の「予」が古来「我」を意味することから、「予」と「象」でその形状にもなっている。館内は平日にも関わらず、家族連れ、教師に引率された子供たちなど、多くの参観者がおり、若いボランティ

河南博物院にて(2023年12月撮影)

アの解説員も活動していた。

新石器時代から宋金元までを中心に豊富な出土文物が展示されており、古代楽器のコーナーでは実演に接することもできる。他の博物館と違い、全ての展示物が地元河南省で出土・存在したものであることがこの館の特徴（自慢？）らしい。2024 年は龍年なので、龍にまつわる文物を探したところ、唐代・長慶元年(821 年)の「盤龍石座」（登封市出土）などは表情が非常に印象的だった。また、日本の国立博物館で 2010～2011 年に開かれた河南博物院所蔵品の特別展『誕生！ 中国文明』で出会ったはずの鼎や青磁との再会を喜んでいるうちに閉館時間の午後 5:00 になってしまった。展示目録は余りにも分厚く、購入を諦め、参観記念のメダル(20 元)を自動販売機で購入して館を後にした。

鄭州市内の観光は 28 日(木)の午前中で終わり、午後は洛陽市孟津区の黄河近くに移動した。そこでの経験はあらためてお話するとして、後半は、29 日(金)の夜、さらに移った先、黄河対岸の済源市でのことを紹介したい。「雑感」2022 年 5 月号でも少し触れたように、済源市は県級市であるにも関わらず 17 地級市のいずれにも属さず河南省が直接所管している点やや特異な存在である。

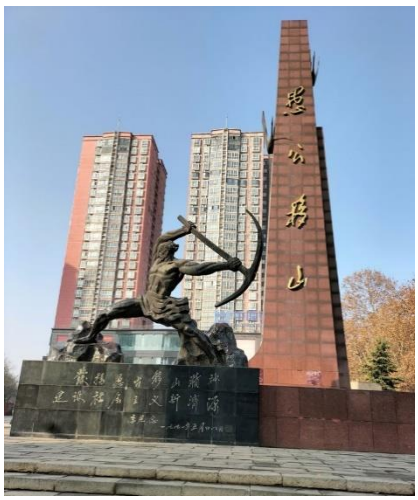
翌 30 日(土)の朝は早々にチェックアウトした後、知人に連れられてまず「小姣不翻」という小さな店で済源名物「鶏蛋不翻」を買った。熱した小さな帽子のような金属製調理器具に溶いた卵をかけ、さらに米で出来た覆いを被せて金属製の蓋をして作る。卵を裏返す必要がないため、この名がついた。これを持ち帰って近くの「王記牛肉胡辣湯総店」に入る。写真は「胡辣湯」と「鶏蛋不翻」（レジ袋の中）、それに「油餅」である。

「胡辣湯」と「鶏蛋不翻」(2023年12月撮影)

胡辣湯はこの雑感でも何回か取り上げた河南省の味の代表格である。今回の 10 日余りの旅行中も、ホテルの朝食を含めて、何度か口にした。写真では見え難いが、ここでは辛さを和らげるため絹ごし豆腐が入っている。一方、鶏蛋不翻はうっすらとした塩味で、胡辣湯と組み合わせた朝食は地元の定番のようだ。私は聞くのも初めてだったが、あらためてネットを見ると中国のソーシャルメディアプラットフォーム「小紅書」などで製法を含めて多数紹介されていた。

さて、済源市というと「愚公移山」（愚公、山を移す）の四字熟語で知られる。これは、90 歳になろうとする北山の愚公という者が、自宅の門前に聳(そび)える 2 つの山を取り除こうと考え、周りの人々が笑うのを横目に、私が死んでも子・孫・ひ孫と続けば、山はこれ以上高くなることはないのだから、いずれは平にできるはず、と山を削り始めた。すると、その様子を見た上帝(天の神)は老人の熱意に感じて山をほかに移してやった、という伝説にもとづく。どんな困難も努力を続ければ克服できるということを教えている(出典は『烈士・湯問篇』)。毛沢東が 1945 年 6 月 11 日に中国共産党第 7 次全国代表大会の閉幕の辞として引用した際には、2 つの山とは帝国主義と封建主義、愚公は自分自身を指していた(『Baidu 百科』)。

この伝説の現場である王屋山(王屋山風景区)は市内から遠いので、代わりに市の中心部に 1991 年に立てられた記念碑を写真に収めた。第 3 代国家主席・李先念による「発揚愚公移山精神、建設社会主義新済源」の題字が見える。当地で昼食を済ませた後、1:40 発の長距離バスで 2 時間半ほどかけて鄭州市内（鄭州駅前の長距離バスセンター）に戻った。



「愚公移山」の記念碑(2023年12月撮影)

（つづく）

古代中国の風流逸話－世説新語－（4）

顧　傑

今回の「世説新語」は、“王祥”という中国歴史上、非常に有名な方の話になります。ご一読ください。

王祥事后母朱夫人甚谨。家有一李树，结子殊好，母恒使守之。时风雨忽至，祥抱树而泣。祥尝在别床眠，母自往暗斫之。值祥私起，空斫得被。既还，知母憾之不已，因跪前请死。母于是感悟，爱之如己子。

訳文：王祥は継母によく仕えている。王祥の家にはスモモの木があり、その果実は特に美味しく、継母はいつも王祥に世話をさせていた。嵐が来ると、王祥は実が落ちないようにスモモの木を抱きしめて涙を流した。

ある日、継母が王祥を殺害しようとやって来たが、王祥はその時だけ他の部屋で寝ていたので生き延びた。王祥が起きて、継母が悔しがっていることを知り、継母の前にひざまずき、自分を処罰してくれるよう頼んだ。継母はこの出来事で後悔の念に駆られ、以来、彼を我が子のように可愛がるようになった。

解説：王祥(180～268)は、現在の山東省の出身。三国曹魏及び西晋時代の大臣で、かの有名な書聖「王羲之」の先祖。その親孝行が世に知られて、「孝聖」とも言われている。

お話の内容が、「殺害」などと物騒な話になり、事情が分かり難かったので、さらに調べた結果、二十四孝の「卧冰求鯉」があった。皆さんに分かり易くするために、こちらもお伝えすることにしたい。

－★－★－★－★－★－★－★－★－★－★－

【卧冰求鯉(氷の上に寝そべって鯉を求める)】

王祥が未だ幼い頃に母親が亡くなった。間もなく、父親は王祥のために継母を迎えた。心優しい王祥は、継母のもとで日々成長していった。しかし、弟の王覚が生まれて以来、王祥は継母の自分に対する態度に変化を感じた。

「弟のおむつを洗っていないの?」

「もうこんな時間よ、料理でもしたら?」

「いつもこんなにぐだぐだすると、ますます怠け者になるぞ！」

王祥の家では、継母のせっかちな叱り声がいつも響いていた。父親も継母の告げ口を信じて、王祥に辛く当たるようになった。王祥は途方に暮れたが、善良な彼は、変わらずに継母の仕事を手伝って親孝行することに最善を尽くした。何人かの近所の人は懐疑を抑え切れず、彼にこう尋ねた。

「継母にこんな仕打ちをされても、あなたはまだ従順で親孝行で、心の中で憤りを感じないのか?」

王祥はいつもの面持ちで微笑み、こう言った。

「母は疲れていて、時々機嫌が悪いだけなんです」

ある雪の日、周りの世界は白くて厚いカーペットに覆われたように、空と大地の境界もわからなくなっていた。葉の落ちた木も雪に埋もれ、道路の横を流れる凍った小川も道路と繋がってしまい、どこまでが道路でどこからが川な分からなくなっていた。

凍てつくような空と雪のあいだ、王祥は土手に立ち、眉間にしわを寄せて氷に覆われた小川をじっと見つめていた。

「母が数日前から病気で寝たきりになっているのだけれど、今日になって急に新鮮な魚が食べたいと言い出した。こんな天気に、何処のお店にも売っていないし、そもそも買えるお金も無い。母のために新鮮な魚を手に入れるには、どうしたらいいのだろうか?」

考えた末、王祥は氷の上に飛び乗り、何度か氷を踏みしめ、ようやく場所を決め、雪に覆われた部分をきれいにし、上着を脱いで横になり、体の温度で氷を溶かそうとした。すると、氷に亀裂が入り始めたので、王祥は緊張しながら氷の下を見つめた。その小さい穴から川の水が溢れ出し、2匹の鯉が水から跳び出して氷の上を跳ね回った。王祥は興奮のあまり、凍える体も構わず、衣服を脱ぎ、2匹の魚を包み込んで家まで走って帰った。

寒さに凍え、か細い腕では上手く包み込めず、まだ

氷の穴から跳び出した二匹の鯉
（「大家藝文大地」/台湾サイトより）

生きている魚が衣服からはみ出ている王祥の様子を見て、さしもの冷酷な継母も恥ずかしくなり、いたわりの気持ちを持つようになった。

この件はその後、「卧冰求鯉」と言われ、王祥は「二十四孝」の一人として周知された。

－★－★－★－★－★－★－★－★－★－★－

解説：継母は、恐らく最初はわが子王覧を家の跡取りにしたくて王祥を殺そうと企んだのだろう。しかし、スモモの木の一件と鯉の一件を経て、継母は王祥の心根に感動し、改心したのだ。

月日は流れ、継母は年を取り、王祥はより一層孝養を尽くした。王祥はよく弟に、「お母さんの健康状態はますます悪くなっている。お母さんを喜ばせ、心配を掛けないように助け合おう！」と言った。

王祥の影響で、弟の王覧も親孝行な人間に育った。

王祥が官吏になった後、どのような立場であっても、気高く清潔であり、人民のために最善を尽くし、宮廷のために尽力していた。

司馬家の勢力が拡大するにつれ、司馬師と司馬昭の兄弟は宮廷で威張り散らし、やりたい放題で、皇帝の権威は彼らによって奪われ、空洞化していった。

新皇帝に即位した曹髦（そうもう）は二人に強い不満を抱き、大臣を召集する際、「司馬昭の心は皆に知れ渡っている！」と怒った。そして、数年後、我慢できなくなった曹髦は、数百人の子女と召使を率いて司馬昭を討ちにかかったが、司馬昭の計略によって殺されてしまった。ほとんどの大臣たちは司馬家の勢力の前に声を上げる勇気がなかったが、王祥だけはひれ伏して大声で泣き、涙を流しながら「これはすべて、私の罪である！」と言ったので、大臣たちは恥じいった。

その後、司馬昭が晋の王に即位したので、王祥は荀顗（じゅんぎ）とともに彼を訪ねた。王祥はいつも儀礼に従って行動し、お世辞を言わないので、荀顗は途中で彼に念を押した。「司馬昭は名誉ある地位にあり、何侯（大臣の何曾のこと）はすでに彼に大礼をしているから、私たちもすぐに跪いて大礼をすべきだ!」

王祥は立ち止まり、真剣な表情で荀顗に言った。「私たちは魏の三公であり、宮廷では丞相だった司馬昭と同じ階級であった。三公が司馬昭に、ことあるごとに頭を下げ、大礼するのはどういう理屈なのか？それでは国家の威厳を損なうことになり、晋王の徳をも損なっているのではないか！」

王祥は司馬昭の姿を見て、儀礼に従っただけだったが、司馬昭は逆に心を動かして、「今日になって初めて、あなたが私のことをどれほど思ってくれているのかがわかった！」と何度も言った。

西晋の成立後、皇帝「司馬炎」は王祥を「太保」に任命し、「徳の高い人物で、政教の隆盛の家長である」と評した。王祥の死後、司馬炎は非常に心を痛め、「王祥のために泣くべし」という勅令を出した。

王祥はその純粋な性質、親孝行、家族や国への尽力ゆえに、後世の人々は賞賛し続けた。

物語は以上であるが、ついでに補足したいと思う。

中国では、隋朝が科挙制度を設け、漢朝が孝行息子を官吏に抜擢する「挙孝廉制度」（毎年郡国から孝であるもの〈挙孝〉、廉であるもの〈察廉〉を推薦させる）を導入してから、親孝行の話がますます過激になりがちだった。実際には、そういう人たちが宮廷に入ったとしても、すぐに実務には就けず、仕事を覚えるまで指導を受けることになるが、その当時の中国において、一般人でも官吏になれる非常に有力な手段であったため、世の中では親孝行が盛んに喧伝されていたのである。

「秦皇島」から「承徳」へ
「避暑山荘・外八廟」駆け足旅行（11）

文と写真　吉光　清

華流ドラマの特徴の一つはそれらが至って長編なことである。NHK の大河ドラマの長さを越える回数で完結するシリーズも珍しくない。昨今は BS 放送や有料チャンネルによって、好きなジャンルを選んで視聴できるようになったが、そうした長編ものは週に一度、２話連続で放映されたりする。

筆者はやはり、歴史を下敷きにした時代劇に親しみと興味を感じてしまう。最初に本気を出して視聴したのは「麗王別妃」だった。玄宗皇帝の孫（代宗）と側室沈氏（追贈睿真皇后）に題材を取ったドラマで、二人の命を狙う黒幕は粛宗の皇后ということになっていた。主人公たちの情愛と哀切、兄弟愛、皇帝と皇太子の微妙な父子関係、皇族間の（後宮と繋がった）権力闘争、唐と西域諸国との協力と敵対関係などに興味を引かれ、ハマった。

近年、清朝の康熙帝、雍正帝、乾隆帝三代のそれぞれの後宮を舞台に大作ドラマが製作された。

「花散る宮廷の女たち～愛と裏切りの生涯～」、「宮廷の諍い女」、「如懿伝～紫禁城に散る宿命の王妃～」と「瓔珞～紫禁城に燃ゆる逆襲の王妃～」に登場するヒロインたちの美貌、強い意志、聡明さに惹かれる反面、後宮における嫉妬や謀略、権力継承を巡る暗闘に暗澹たる思いと憤りを感じた。もっとも、それらは清朝に限らず、いずれの王朝でも、日の本の国でも見られたことであり、いや現代でも、権力を奪い合い、更なる権力と利益を求め、支配を広げようと諍い、戦争まで引き起こす図式は、全く変わっていないように見えるのは悲しい限りである。

■「青楓緑嶋」の説明盤

康熙帝の肖像が祀られていたお堂の近くに、楼閣があり、それを説明する案内盤があった。頑丈な枠に右から「青楓緑嶋」の文字があり、陶板にその由来が記されてあった。

曰く、「（この庭園建築は）康熙四十八年（1709 年）に建てられた。この場所一帯に楓の木々を植えて、緑濃く茂ったので、それに因んで命名された。門殿の幅

「青楓緑嶋」を説明する案内盤

は三間で、その先の壁の中央には月形の丸い門（月亮門）が造られていて、その門を通り抜けると、庭園を二分しながら、真っ直ぐ『正殿（風泉満清听）』に到達する。正殿は往時、康熙帝、乾隆帝が登山遊覧した時に休息した場所である。その最上部にある平台は、農暦八月十五日に毎年、皇帝が昇って月を愛でた場所である」

創建時期から考えて、当然、康熙帝が命じて造らせたものと考えられる。楓の樹々が茂った林は周囲から緑色が際立って、さながら島のように見え、夏には涼しい木陰となり、秋には美しい紅葉が見られたということであろう。

「青楓緑嶋」の建築様式は「園林建築」で、庭園を中心に「門殿」「霞標殿」「吟紅樹」「正殿」が周囲に配置されているようである。これらは、中国北部の四合院の配置を少し変化させたもので、対称的な構成にはなっていない。

観光地図で見ると、「青楓緑嶋」は避暑山荘内の山地の東端に位置し、平地との境界に位置するため、東側に向かって高低差が大きく、さぞかし展望が利くと思われた。しかし、時刻は既に午後２時を過ぎてしまっていたので、建物内には入らずに前を通り過ぎただけになった。

「青楓緑嶋」の前は山道が交叉していて、山荘内を

「普乐寺」、「蛤蟆石」と「棒槌山」

循環するバスの停留所があったが、地図にはそのような印や交差する山道は記載されていなかった。

■永佑寺舎利塔と彼方の「磬錘峰森林公園」

東側の眺望が開けた場所に出たので、展望を楽しんだ。すぐ近くには、八角形と思しき九層の塔が見えた。ランチタイムを取る余裕もなく、市街地を急いで歩き過ぎた時に右手上方に見上げた塔だった。観光地図によれば避暑山荘内の東端近くにある「永佑寺舎利塔」に違いなかった。いわゆる中華式建築による搭ではなく、西安の「大雁塔」のようでもあり、寧夏回族自治区などに残る古い仏塔のようでもある。搭の先端も特徴的である。

塔の向こうに見える市街は武烈河を挟んだ対岸地域にある。その奥の緑濃い丘陵地帯は「磬錘峰国家森林公園（国家４Ａ級旅游景区）」である。

丘陵の頂上に見える屋根は、目を凝らすと円形のようであり、「普楽寺」の中心的な建造物である「旭光閣」だと思われ、その外見は「天壇公園」の天壇を思わせた。その更に奥には、ボンヤリとだが「蛤蟆石（ガマガエル石）」が見えて、その左には間違えようも無い奇怪な形で屹立する「棒槌山」が望まれた。

手持ちの観光地図では「蛤蟆石」と「棒槌山」は表示範囲の外になっていたが、地図の裏面に掲載されていた特徴ある写真のお陰で、それと知ることが出来た。同じように不安定な高い岩二つ並ぶ「双塔山」というのが避暑山荘の遥か西にあるようだ。

「磬錘」とは叩いて音を出し、寺院内での連絡に用いる道具らしいが、庶民はより身近で分かり易い、洗濯用の叩き棒や工作に使用する槌の形をイメージし、「棒槌」と呼び習わしてきたらしい。

■湖岸に降りて

多分、これが地図に載っている道だろうと思って、太い道を 15 分ほど下った。途中では人影を見ることは無かった。左側に小川の流れが現れ、すぐに広々とした池になったが、流れは更に下に向かい、湖岸の一画に着いた。目についたのは水面を広く覆った睡蓮で紫色の可憐な花が咲いていた。

色鮮やかな睡蓮の花

湖の対岸かと思って進んだら、中の島（？）に渡っていたことに気付いた。渡る途中で眺めた景色は、右側は「如意湖」、左側は「澄湖」だったということになる。

島に渡ってすぐに左右に分かれた道を左に進むと、赤い文字で「烟雨楼」と書かれた岩が、橋の手前にあった。橋の向こうは「青連島」という小島であり、門殿の後方には、いくつかの建物が見えていた。そのあたりには観光客が三々五々歩き廻っていた。乾隆帝が避暑山荘の中に各地の名勝地を再現しようと、ここには浙江省にある「烟雨楼」を模して造らせたということであった。

楼に登れば、周囲の湖岸の景色が一望できる筈だったが、乾隆帝が揮毫した「烟雨楼」の扁額を見ただけで、橋を渡って元の島に戻った。湖上には、小型の遊覧船やボートが浮かんでいた。　　（つづく）

湖上に架かる橋の向こうに「烟雨楼」

紅水河と清水河

訳：一瀬靖子／大槻一枝

昔、南弄地方に医者がいました。病人の脈をとり治療して人助けをしていましたが、数年するとこの仕事が煩わしくなり、別のもっと手軽な仕事を探したいと思うようになりました。

ある日、彼は薬箱を背負い手軽な仕事を探しに出かけました。森の近くに来ると、手に斧を持ち大きな樹の下でぼんやりと立っている大工に会いました。医者は近寄って、「貴方はここで何をしているのですか」と聞きました。大工は、「私は毎日山で木を伐り、それを板にして家を建てるのが仕事ですが、この仕事は疲れるので別の軽い簡単な仕事を探したいと思っているのです」と答えました。医者と大工は樹の下に座り、話せば話すほど意気投合して一緒に軽便な仕事を探しに行くことにしました。

少し行くと鍛冶屋に会いました。肩に鉄槌を背負って茅葺の小屋の前で考え込んでいます。彼らは近寄って、「ここで何をしているのですか」と聞きました。「私は毎日トンチン、カンチン鋤や鎌を打っているのだが、この仕事は本当に大変なのだ。私は別の軽い仕事を見つけたいと思っている」と答えました。

貴州省の位置—Amaon.co.jp—

同じ考えを持った医者、大工、鍛冶屋は新しい仕事を求めて歩き出しました。彼らは山を越え、野を越えて、来る日も来る日も歩き続け、道々瓦職人、竹籠職人、鋳物屋、綿打ち・・・などがこれに参加し、合わせて七十二の職人が集まりました。皆同じように易しい仕事を探しているのです。

ある日の夕暮れ、彼らは村の大きな榕樹（ガジュマル）の下にたどり着きました。伝えるところによれば、この木は神木で木の枝は開いた傘のように空を遮り、木の根元は空洞になっていました。中は七十二人全員がもれなく入ることが出来るほど広いのです。彼らはこの樹の根元で夜を明かしました。翌日はちょうど六月六日で、各家はチマキを持ち寄り神木に供える日でした。中に特別大きなチマキがあり、七十二人が一斉にこれに食らいつくと、あら不思議、彼らは一口食べるごとにだんだん小さくなって行きました。七十二人の小人は、半月もかかってやっとチマキの中の餡にたどり着き、餡を食べ終わるとチマキの中に座り込んで、これは楽だと互いに喜び合いました。

ところが、その晩突然暴風が襲って来ました。にわか雨が降り出し、雷鳴がとどろき、稲妻が光り始めました。洪水がこのチマキの中の七十二人を巻き込み、大河に押し流しました。さらに流れに乗って来た鯉が、このチマキを見て一口で腹の中へ呑み込んでしまいました。鯉の腹の中は息苦しく、暑く皆もう生きて外に出られないのではないかと焦りました。そして軽い容易な仕事を探そうとしてきたことを悔やんだのです。

雨が止み空が晴れました。一人の老人が川のほとりに魚釣りにやってきましたが、一晩待っても一匹の魚も釣れないので、あきらめて家に戻ろうとしているところでした。その時、糸に何か重いものが掛かって来ました。老人がゆっくり引き上げてみると、大きな鯉です。彼は腰のナイフを取り出して魚の腹を割いてみました。すると、突然魚の腹の中からたくさんの小人が飛び出して来ました。七十二のそれぞれ違った職業を持つ職人だったのです。彼らは二日間も魚の腹の中に閉じ込められ、やっと陽の光を浴び新鮮な空気を呼吸して、ふたたび普通の人間に戻ることができ、心から釣り人に感謝しました。

釣り人が、「あなた方はどうして魚の腹の中

に・・・？」と聞きました。「我々は神木に供えられたチマキを盗み食いしました。そして洪水の日に川へ投げ出されたのです」釣り人がさらに、「どうしてお供物のチマキを盗み食いしたのですか？」「我々はあの大きくて、美味しそうなチマキを見て餡を食べたいと思ったのです」「あなた方は皆手に職を持った立派な職人ではありませんか！その上もっと軽い容易な仕事を、などと欲張ったのがいけませんでしたね」

年老いた釣り人は、「それぞれ皆困難を恐れず、自分の能力を発揮するように！」と諭しました。

彼らが語り合っていると、空を飛んでいた鷹が地面に横たわっている大きな魚に目を付けて、突然急降下してきましたが、魚をさらわず釣り人のフェルトの帽子をさらっていきました。帽子の窪みには老人が長年かかって貯めた銀貨があり、それを鷹にさらわれて老漁師は失望しました。皆は「ご老人、貴方は私達の命を救ってくださった恩人です。今度はあなたの災難を私たち皆でお助けして、あの帽子を取り返しましょう」と励ましました。

布依族の民族衣装—Amazon.co.jp

老人を先頭に、いくつもの山を越えもう少しで鷹に手が届く山の頂まで来ましたが、その時鷹が突然翼をはばたかせ、強い風を起こしたので天地は真っ暗闇になってしまいました。風が止むのを待って目を開いて見ると、鷹はすでに南天門に飛び立ち，産み落とした卵で南天門を塞いでいます。老人が顔を上げ南天門を見つめて考えていると、一人の職人が、「我々七十二人は皆腕のいい職人です。みんなでやれば、きっと南天門に登りフェルトの帽子を取り戻すことができます！」と言いました。皆も「そうだ、そうだ」と口をそろえました。

老人が、「南天門はとても高く雲梯をかけなくては登れない。そんな梯子をどうやって作るのか」と言いました。鍛冶屋が、「梯子をかけるなら、まず木材、竹を伐らなくてはならない。私が斧を作って来る。竹刀（ひごを作るナイフ）も」言い終わると、炉を作って、トンチン、カンチンと斧、金槌、ナイフなどを作りました。工具ができると、大工は木を伐って梯子を作りました。竹職人が竹ひごで踏み板をしっかり縛りました。

こうして七十二人は各々の能力を発揮し、雲梯はまもなく出来上がりました。老人に山の上から梯子を支えてもらい、職人たちは次々と雲梯を登って南天門に登り着きました。

しかし、鷹が卵で南天門をしっかりと塞いでいるので、どうしても門が開きません。石工が進み出て「それは私がやります」と、金槌と鏨を取り出し、卵の殻にパンパンと穴を開けました。殻は破れ、卵の黄身と白身が流れ出しました。左官が大急ぎで鏝（こて）で卵黄と卵白を分け、それを別々に流しました。卵黄と卵白は七日七晩流れました。卵黄が流れたところは＜紅水河＞となり、卵白が流れたところは＜清水河＞となりました。七十二人の職人は南天門に上り、鷹を見つけてフェルトの帽子を取り返しました。老人は「あなた方七十二人は、それぞれ自分の職業を活かして、今度の成功を得ることが出来たのです。七十二の職業は皆繋がっていたのですね」

七十二人の職人は互いにうなづき合いました。その後、彼らは老人と共に、紅水河、清水河一帯で暮らしたということです。　　（整理：蒙立秋）

～・～・～・～・～・～

訳者より：

プイ（布依）族の民話です。プイ族とは次のような少数民族です。

〈タイ系少数民族。中国少数民族の一つ。主として貴州省西南部の盤江流域に居住。人口約 124 万人。宗教は多神教。正月には臼で餅を搗きます。ろうけつ染めで有名です〉

原題は、「紅水河与清水河」ですので、当初「赤い河と白い河」としようかと考えましたが、清流を白い河では少し変だと思いここは原題の通りとしました。この地方には、清流と鉄分を含んだ少し赤い色の河が流れているのかな？ と思ったり。

村岡花子とＮＨＫ（2）

和田　宏

〈真珠湾攻撃〉

旧日本軍は、日本時間で1941年12月８日（月）の午前２時55分、ハワイの真珠湾に停泊しているアメリカの軍艦を奇襲攻撃しました。当時のNHKの館野守男アナウンサーが、“臨時ニュースを申し上げます。臨時ニュースを申し上げます。大本営陸海軍部、十二月八日午前六時発表。帝国陸海軍は本八日未明、西太平洋に於いてアメリカ、イギリス軍と戦争状態に入れり”と、放送しました。

花子は、この日の夕方の番組『こどもの新聞』に取り上げる予定でしたが、軍部からＮＨＫに横槍が入り、“太平洋戦争開戦の大戦果を放送するのに女性の声では意気が揚がらない。男性アナウンサーに変更しろ“と言って来ました。花子の家には、NHKから電話が掛って来て、“今日は局に来なくてよいです”と言われ、有無を言わせず、10年間続けた番組から降ろされたのです。

私が昔、ＮＨＫ国際放送局で英語ニュースを担当している時、アメリカ人の女性アナウンサーが、いつも偉そうに振舞っている５歳上の同僚に誕生日を訊ねた時、彼が“I was born on December seventh in Nineteen Forty-one.”と答えたところ、彼女は、びっくりした表情で“That day was the day of the attack on Pearl Harbor. So you are aggressive.（その日は真珠湾攻撃のあった日です。だから、あなたは攻撃的なのだ！）”と言いました。

この対話を傍で聞いていた私は、アメリカ人のユーモアに笑いつつ、真珠湾攻撃は、日本時間で12月８日の未明だが、ハワイ時間では12月７日の朝になり、日本とハワイとの間には19時間の時差があることに改めて気付かされました。

日本の政治・経済・社会は軍部に掌握され、NHKも政府の厳しい統制を受け、終戦まで政府の情報宣伝の機関として、“偏向放送”を強いられたのです。

〈学徒出陣〉

戦争の雲行きがだんだん怪しくなって来て、兵力が足らなくなり、卒業までは兵隊に取られることを猶予されていた大学生のうち、文科系の学生は、学業を中断させられて兵役に就くことになりました。

1943年10月21日、秋雨のけぶる明治神宮外苑競技場で、「出陣学徒壮行会」が行われました。軍楽隊が奏でる行進曲に合わせ、東京帝国大学を先頭に７７校の学生２万5000人が、それぞれの校旗を掲げて行進。小銃を担ぎ、雨でぬかるんだ地面を踏む学生達の姿は勇ましくも哀れでした。この時、檄を飛ばす演説をぶった東条英機首相は、私が通った戸山高校（旧制東京府立第四中学校）の先輩でした。競技場のスタンドを埋めた５万人の大観衆から期せずして、“海ゆかば”の大合唱が沸き起こりました。雨に濡れながら歌った女学生の中には、私の友人の母親も居ました。

“海ゆかば”は、元は大伴家持の作った長歌です。♪海行かば水漬く屍　山行かば草生す屍　大君の辺にこそ死なめ　かへりみはせじ♪　信時潔が、日本放送協会の嘱託を受けて1937年（昭和12年）にこの長歌に曲を付けたもので、戦地に赴く者を見送る際の激励や、戦死者を悼む際の鎮魂歌として、広く歌われました。私が早稲田大政治学科で取ったゼミの吉村健蔵先生が、戦塵に散った学友を忍んでこの“海ゆかば”を歌ったので、我々ゼミ生も同じように歌ったものです。

〈終戦の詔勅〉

1945年８月15日正午から、ラジオ放送された迪宮（みちのみや）裕仁昭和天皇の終戦の勅語（玉音放送）についてです。８月10日午前０時から宮城内の地下防空壕で開かれた昭和天皇も出席した御前会議で、ポツダム宣言の受諾が決定され、鈴木貫太郎内閣は、直ぐにポツダム宣言の受諾を連合国へ申し入れました。14日夜、大東亜戦争終結の詔書は、天皇が宮内省内廷庁舎で朗読し収録されました。私は、この玉音放送のレコード盤収録に立ち会った先輩二人と職場が一緒になったことがあり、先輩二人は、“現人神”に緊張して付き添い、収録が済んだ録音盤を２つ作って２か所に分けて隠し、翌日15日正午の本放送まで一睡もせず見張ったと当時の様子を教えてくれました。千代田区内幸町にあったNHK東京放送会館局舎の周りにも、降伏せずに玉砕するまで戦争を続けるのだという考えを持つ暴漢が、うろうろしていたからです。事実、14日深夜から15日の未明にかけて、

陸軍の中堅幹部数人が宮城に侵入し、終戦の詔書の放送を阻止しようとしたが、失敗した事件（8・15事件）が起きました。15日正午、レコード盤の玉音は無事に再生されてラジオ放送されました。和田信賢アナウンサーが、始めに聴衆に起立を求め、「君が代」が流れた後、“朕、深く世界の大勢と帝国の現状とに鑑み、非常の措置をもって時局を収拾せんと欲し、ここに忠良なるなんじ臣民に告ぐ。朕は帝国政府をして米英支蘇四国に対し、その共同宣言を受諾する旨通告せしめたり。・・・しかれども朕は時運のおもむくところ、堪え難きを堪え、忍び難きを忍び、もって万世のために太平を開かんと欲す。・・・”と、4分半、甲高く堅苦しい声が流れました。

日本人の殆どの人は、この時、恐れ多くも畏くも天皇の肉声を初めて聞いたのです。内容はよく判らず、お年寄りの町内会長さんらが、“どうやら日本は戦争に負けて、戦争は終わったみたいだ”と説明して、やっと理解したのです。戦争に負ける筈がないと洗脳されていた一億総国民は落胆し、宮城前広場には、土下座して謝る人々の姿がありました。

満州国の首都・新京（長春）にあった満州映画協会の理事長だった甘粕正彦は、♪大ばくち　身ぐるみ脱いで　すってんてん♪という辞世の川柳を残し、1945年8月20日、青酸カリを飲んで自殺。彼は、陸軍憲兵大尉だった時の1923年9月1日に発生した関東大震災直後、大勢の朝鮮人らが殺されるという事件の混乱に紛れて、アナーキストの大杉栄と内縁の妻・伊藤野枝、それに6歳の甥・橘宗一の3人を殺した張本人です。

〈花子とヘレン・ケラー〉

花子は、74歳のヘレン・ケラーが、戦後の1955年5月に、3度目の来日をし、各地で行った講演会で、英語から日本語の通訳を務めました。ヘレンの家庭教師のアン・サリバン女史は既に亡くなっており、ポリー・トムスンが付き添いました。花子は、『伝記ヘレンケラー～村岡花子が伝えるその姿～』という本も書いており、これを読むとヘレンがいかに困難を乗り越えて頑張った人であるかが判ります。3重苦のヘレン・ケラーは、こう言っています。“人間は20歳になったら、2週間、目が見えないことを体験すべきだ。そうすれば、目が見えることがどんなに有り難いことかが身に染みて分かるだろう”と。ヘレンと花子は、同じ1968年に亡くなっています。ヘレンが享年87歳、花子が享年75歳。花子は英語の達人でしたが、生涯和服を着ていました。

ヘレン・ケラー（左端）と村岡花子（中央）1955.5.31
（村岡花子著作より）

〈横浜市営久保山墓地〉

私の祖父母や父母らが眠る和田家の墓は、町田市の民営の「東京多摩霊園」にありますが、明治生まれの母から“宏は4男だから分家して、別にお墓を作りなさい”と言われたため、横浜市営「久保山墓地」に墓所を確保しました。花子のお墓が同じ「久保山墓地」にあります。元総理の吉田茂の墓もあります。

♪まだまだとおもいてすごしおるうちに　はや死のみちへむかうものなり♪。この短歌は花子が小学校3年生の時、高熱を出して死にそこなった時に作った辞世の歌だそうです。

〈ブラックバーン校長の卒業式式辞〉

連続テレビ小説『花子とアン』の卒業式で、ブラックバーン校長は次のように述べました。“私の愛する生徒たちよ、我と共に老いよ。最上の物は尚あとに来る。今から何十年かあとにあなた方が、この学校生活を思い出して、あの時が一番幸せだった、楽しかったと心の底から感じるのなら、私はこの学校の教育が失敗だったと言わなければなりません。人生は進歩です。若い時代は準備の時であり、最上の物は過去にあるのではなく、将来にあります。旅路の最後まで希望と理想を持ち続け、進んで行く者でありますよう！”

わんりぃの皆さん、最上の物は尚あとに来ることを信じて、私達もまた旅路の最後まで希望と理想を持ち続けようではありませんか。

アンもこう言っています。『曲がり角をまがった先に何があるかは、わからないの。でも、きっといちばんよいものにちがいないと思うの！』　　（完）

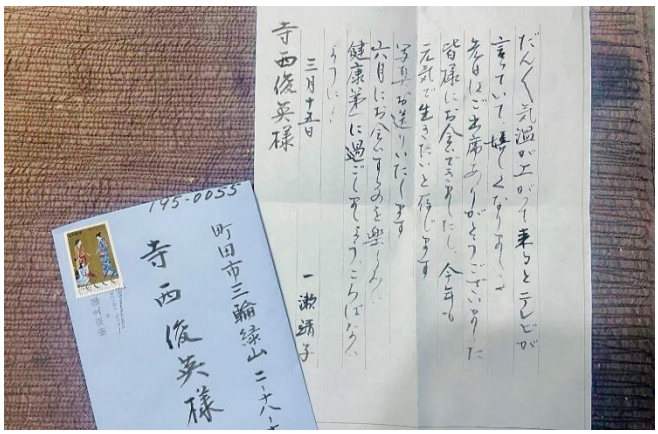
徒然なるままに

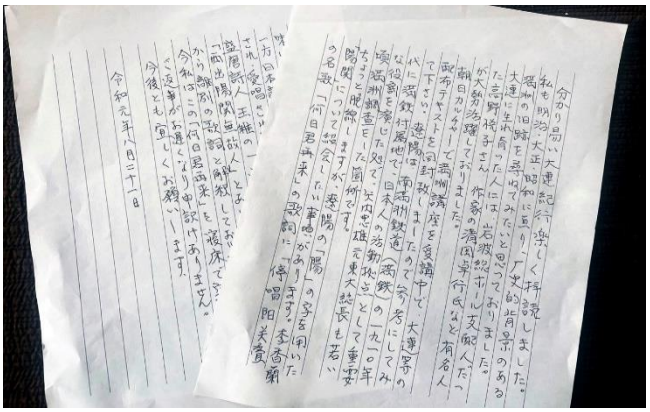
寺西　俊英

ある日、家の中の書類の整理をしていると、親しくお付き合いさせて頂いている、会社は違いますが同じ企業グループにお勤めの先輩 A さんから、令和元年 8 月 21 日付で頂いた手紙が出て来ました（写真参照）。この手紙に触発されて、A さんとのかかわりを主に、私の来し方 30 年余りを、徒然なるままに、書き起こしてみました。

この A さんとは、私が勤めていた会社が、社員の福祉や中国への事業展開に資するために、毎週一回 18 時から開いていた中国語教室に一緒に参加し、我々は以後 30 年来の知己となりました。そして私にとってこの時が中国語に接した最初の機会でした。二人とも冷やかし半分に参加したのですが、F 老師の笑顔と上手な指導方法に乗せられ、以降先輩も私も今日まで長く中国語に関わることになりました。「現在几点？」とか「今天星期几？」と聞かれてもすぐに答えられなかったのを懐かしく思い出します。2007 年から 2 年間、会社が大連進出のため設置した子会社の総経理として赴任した伏線はこの教室にあったかもしれません。

A さんは中国語教室に参加する前に、「漢詩会」に入られていて漢詩には造詣が深い方です。その会に私を何度も誘われるので行って見ることにしました。会の名前は「望雲社」で、場所は JR 千駄ヶ谷駅から徒歩 7 ～ 8 分のところにある「鳩森八幡神社」の社務所でした。この神社は池波正太郎の鬼平犯科帳にも何度か登場する有名な神社です。ここには高さ 3 メートル位の富士山をイメージした富士塚があり、毎月 1 回通うごとに登ったものです。また境内の一角に将棋の技術向上を目指す人の守護神として





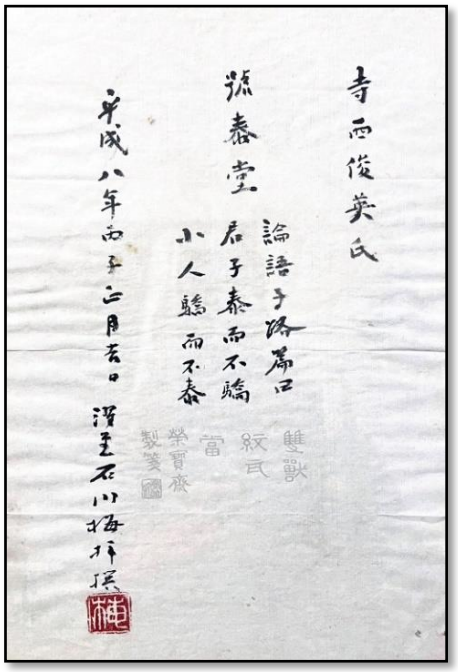
「将棋堂」があり、有名な棋士の方々も祈願祭には見えられるそうです。きっと、藤井聡太 8 冠も参詣に来られたのではないでしょうか。

月に一度例会があり、20 名くらいの方が石川梅次郎先生を師として日本楽府などの教材の解説をお聞きした上で、絶句や律詩づくりに取り組みます。漢詩には多くの決まりがあり、それを頭に入れながら作詩するのです。私のような初心者は諸先輩にお聞きしながら行うのですが、随分骨の折れる作業でした。ここで唐詩や宋詞に接しながら中国の歴史や文化を勉強するのは楽しいことでした。3 ～ 4 年経ったとき、A さんから、「そろそろ石川先生に雅号をお願いしたらどうですか」と言われるので「私のような未熟者でもいいのですか？」と言うと、「貴方だけ無いのですから、私から先生にお願いしてあげます」と言われ、しばらくしてから石川先生から〈泰堂〉という立派な雅号を頂きました。（次頁の写真参照）泰は泰山の泰で、名前負けしそうですが、私は大いに気に入り、以後、例えばメールアドレスも t_taizan～とするなど泰山を取り入れました。

A さんはまた、お酒の好きな故 M さんと懇意にされていました。M さんは、ある企業グループ内の N 総合研究所の編集長を長年され、漢詩の碩学で何冊か本を書かれていました。手賀沼の近くに居を構えておられたことから「湖畔吟遊」の題名の本を頂きましたが、時折この本を開いてはお元気であった頃のお話を懐かしんでいます。

ある時、神谷バーに飲みに行くから、と言って誘われましたので 3 人で出掛けました。神谷バーは、明治 13 年創業の老舗で日本で初めて出来た浅草 1 丁

目にあるバーです。名物は、カクテルベースになっているブランデーである「デンキブラン」。アルコール度数は 30 度もあるとか。私はお酒は殆ど飲みませんが、デンキブランという美しい名前に誘われて少し口にしましたが、口当たりがいいので美味しくいただきました。いい思い出となりました。


寺西俊英氏
論語子路篇曰
君子泰而不驕
小人驕而不泰
平成八年丙子正月吉日

さて A さんの手紙ですが、私が 2011 年に大連に旅行した思い出を綴ったものを小冊子にした〈大連小旅行記〉を送ったことへの礼状です。丁度 A さんは朝日カルチャーで「満州講座」を受講中でしたので色々な資料を送って頂きました。文中に特に遼陽のことに触れられ、次のように書かれています。

『遼陽は、南満州鉄道の満鉄付属地で、1910 年代に日本人の活動拠点として重要な役割を演じたところで、矢内原忠雄元東大総長も若い頃満州調査をした箇所です』と書いてありました。

遼陽について、私はこのわんりぃで「遼陽という街」と題して 246 号（2019 年 9 月号）から 251 号まで 6 回にわたって書きましたが、とても興味を持った街です。遼陽は大連や遼寧省の省都である瀋陽より歴史は古く、紀元前から遼東半島を含む東北地方の政治経済の中心地であった街です。AD220 年～280 年の魏・蜀・呉の三国時代、この遼東半島全体を公孫家が AD190 年頃から 238 年まで遼陽を中心に三代に亘って支配しました。わずか 50 年の支配でしたが、ある本には魏蜀呉に公孫を加え四国時代ともいえる、と書かれています。魏から実権が移った司馬家（司馬仲達）によって滅ぼされました。

大連老虎会　新橋亭　　2024.3.11

先輩も別の角度から興味を持たれたようです。さらに遼陽の「陽」の字を用いた「陽関」について紹介したいことがあります、として次のように書いてありました。『李香蘭の名歌「何日君再来」の歌詞に「停唱陽関叠　重擎白玉杯」の語句があり、中国民謡歌の意味は離別の主題歌と解釈すべきです。一方日本語訳では恋心、恋人を思う気持ちで翻訳され愛唱されています。原点は王維の「送元二使安西」の結句に「西出陽関無故人」とあり、陽関の所在・機能から離別の歌詞ですね』とありました。陽関曲は、送別の席で歌われたようです。遼陽から発想が飛んで面白いですね。

大連のことに少し触れましたが、老虎会（通称：大連会）を紹介し本稿のまとめと致します。老虎は、虎のことですが、この名前を付けたのは大連の海沿いに老虎灘という景勝地がありそこから取った名称です。会員は戦前大連で生まれ育った人で、敗戦時、身一つで引き揚げられた方々です。殆どの方が、その時初めて母国を目にしておられ、日本の島影を見た時は涙なしには見られなかったようです。3 ヵ月毎に新橋の新橋亭で例会があります。私は大連で 2 年間仕事をした関係で、また若い人も必要とのことで、特別に仲間に入れて頂きました。3 月 11 日の例会では 7 人が集まり昔話に花が咲きました。皆さん 94 歳と 95 歳ですが、とてもお元気です。（7 人の集合写真と写真が入っていた一瀬さんからの手紙を参照ください）皆さんのお話では昔日本が占領していた時に名付けた地名が飛び交います。例えば、市内の有名な広い道路の「人民路」は当時の「山県通り」です。山県有朋から取ったネーミングです。また当時のヤマトホテルや横浜正金銀行などがある円形の「中山広場」は「大広場」と言う具合です。老虎会の方々は、大連は自分たちの生まれ故郷なので愛着は人一倍なのです。過去はどうあれ、日本と中国は一衣帯水の国同士です。未来永劫仲良くお付き合いできることを祈って筆を置きます。

【中国の笑い話-57】「365 夜笑話」より　翻訳:有為楠君代

第 203 話　イスの足を捜す

農村では、背もたれも何もない座面の円い椅子を多く使っています。そしてその足には、三股になった木の枝を使います。

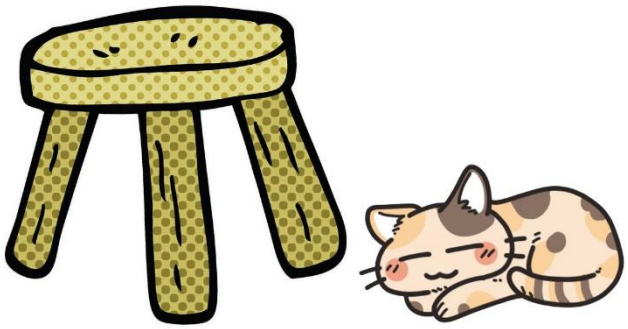
ある家の椅子の足が壊れてしまったので、父親が息子に、木に登って三股の枝を切り出し、椅子を直すようにと言い付けました。

息子は斧を持って出かけ、長い間帰って来ませんでしたが、夕方やっと手ぶらで帰って来て言いました。

「村の内外を探し回ったけれど、椅子の足に出来るような木の枝は見つからなかった」

父親が言います：「馬鹿を言うんじゃない！　どの木にも椅子の足になる三股の枝が無いと言うのか？」

息子は言いました：「三股の枝はあったよ。でもみんな上を向いて生えていて、椅子の足に出来るようなのは一本もなかったんだよ！」



第 204 話　絵の中のウサギ

李さんが趙さんに一枚の絵を見せながら言いました：「この絵には、ウサギと青菜が描いてあるけど、この青菜はどうしてウサギに食べられてしまわないのでしょうね？」

張さんは言いました：「画家は青菜を先に書いたんだ。後からウサギを書いたんだが、ウサギは未だ青菜に気が付いていないんだよ」

第 205 話　金持ちの肖像画

金持ちが、自分の肖像画を描いて貰おうとしたが、絵師に金を払うのは渋った。

絵師は怒って、金持ちの後姿を描いてやった。

金持ちは、その画を見てみて、訝しそうに訊ねた。

金持ち：「肖像画は、みんな正面を向いているのに、どうして私の後姿なんか描いたんだ？」

絵師は答えた「あなたは画に金を払おうとしないのだから、そんな顔を他人に見せない方が良いと思って、後姿を描きましたよ」

第 206 話　児童の絵

老画家：「坊や、この入賞した画は何歳の時に描いたんだい？」

子供：「74 歳」

老画家：「え！　74 歳の時に書いたって？」

子供：「そうだよ。僕が 8 歳の時描いて、直してくれたおじいさんが 66 歳だから 74 歳だよ」

第 207 話　馬を知らない先生

トム：「パパ、僕の先生は馬を知らないんだよ！」

パパ：「トム、馬鹿なことを言っちゃいけないよ！」

トム：「ホントだよ！　昨日僕が馬を描いて、先生に見て貰ったんだけど、先生は驚いて僕に『これはなんだ？』って訊いたんだよ！」

第 208 話　僕が描きました

校長先生は、壁に落書きがあるのを見つけました。草花や動物がたくさん書いてありました。

校長先生：「この落書きをしたのは誰だ？」

子供たちは、誰も敢えてこたえません。

校長先生：「よく見ると、絵は良くかけているな。百点満点をつけても良いな！」

それを聞いて、一人の生徒が直ぐに答えた：「僕です、僕が描いたんです！」

—料理講習会—

水餃子を作りましょう

<餃子の作り方講習会〉

日時：2024 年 5 月 2 日（木）
10 時 30 分～15：00 頃
場所：麻生市民館料理室
新百合ヶ丘駅徒歩 3 分
講師：郁唯（上海市出身）
会費：1800 円
参加申し込み：4 月 15 日まで受付
電話：044-986-4195
e-mail: t.taizan@yahoo.co.jp

÷÷÷÷÷÷÷÷

毎週火曜日に中国語勉強会で講師をお願いしている郁唯さんに、餃子の作り方を教えていただきます。

餃子は、皮から家庭で作ると美味しいと分かっていても、なかなか作る気にはなりませんね。でも、コツを掴めばもっと気軽に出来るようになるかも知れません。

日本では餃子と言えば焼き餃子ですが、中国では、茹でていただく水餃子が殆どです。そして餃子をいただく時は、スープ代わりに茹で汁をそのまま頂きます。茹で汁は、食べた餃子の消化を助けてくれると言われています。今回は、中国の家庭の伝統に倣って、水餃子を作り茹で汁も一緒に頂きます。

餃子は主婦助けな料理です。肉が少量あれば、野菜は殆ど何でも使えます。あと、皮が家で出来たら、いつでも思い立った時に作れます。

是非、皮を家で作れるようになりましょう！

さくら変相（奏）曲

M.T. 記

今年の桜前線予報は、関係者泣かせでした。2 月末までは、今年も開花は早いといわれていたのに、3 月に入って何回か寒波が到来し、間に極端に暖かい日を挟んでも、蕾はなかなか膨らまず、結局、東京の桜は 3 月最終週に開花となり、満開は 4 月に入ってからという所が多くなりました。最近の「例年」と比べるとかなり遅い開花となりましたが、今年は変則でしょう。

30 年ほど前まで、桜は入学式の花でした。それが、地球温暖化と共に年々早まり、今では卒業式の花になってしまいました。しかし今年だけは珍しく、桜吹雪の中で、小学校の入学式が挙行されるかもしれません。

少々古い話ですが、20 年ほど前、北京で大学生の野外パーティーに参加した時のこと、日本の歌「さくら」を歌いましょう、ということになり、私は小学唱歌の「さくら」を歌うつもりで口を開いたら、彼らは、森山直太朗の「さくら」を歌い始めました。歌の世界でも「さくら」は変相していました。

◇満柏画伯の漢訳俳句◇

花散るや
寂然として 石仏

正岡子規

cán huā suí fēng luò
残 花 随 风 落
jì rán yī shí fó
寂 然 一 石 佛

【わんりぃの催し】

♫ ボイス･トレで日本語の歌を歌おう！

身体の力を抜いて気持ちよく発声しよう！
声は健康のバロメーター！！
＊動きやすい服装でご参加ください。

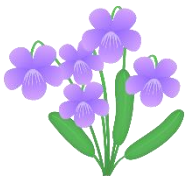
- **会場**：まちだ中央公民館　美術工芸室
- **日時**：4 月 23 日（火）10：00～11：30
  5 月 14 日（火）10：00～11：30
- **講師**：Emme［エメ］（歌手）
- **会費**：1,500 円（講師謝礼・会場費）
- **定員**：15 名（原則として）
- **申込**：☎042-735-7187（鈴木）

～～～～～～～～～～

❀❀ 中国語で読む 漢詩の会 ❀❀

漢詩で磨く中国語の発音！ 中国語のリズムで読んで漢詩のすばらしさを味わおう！

- **会場**：まちだ中央公民館　視聴覚室
- **日時**：4 月 28 日（日）10：00～11：30
  5 月 26 日（日）10：00～11：30
- **講師**：植田渥雄先生
  桜美林大学名誉教授
- **会費**：1,500 円（会場費・講師謝礼）
- **定員**：20 名（原則として）
- **申込**：☎090-1425-0472（寺西）
  Email:ukiuki65jpjp@yahoo.co.jp
  （有為楠）



■４月・５月定例会　代表宅

▼4 月 18 日（木）13：45～
▼5 月　9 日（木）13：45～

■‘わんりぃ’発送　三輪センター

▼5 月号　5 月 1 日（水）
▼6 月号　　未　定

☆☆編集後記☆☆

4 月は新しい年度が始まります。とは言え、年度などとは人間が定めた期限で、外国では、1 月 1 日を新年度とする所もあるようです。それでも、日本に住む限り、4 月には何か新しく始まることを期待してしまいます。

しかしながら、自然界の営みには何の期限もなく、変化は続きます。特に地球の温暖化は、年も年度も関係なく進んでいます。

最近テレビでは、熊の出没がニュースになっていますね。ごく最近のニュースは、冬眠で、眠りの浅い熊が出て来たものもあるでしょうが、1 月 2 月の冬の間も、熊が村の近くに現れ、「冬眠しない熊」が話題になりました。

これは明らかに地球温暖化の影響だと言われています。目に見えないところで、後々大きな影響を及ぼす変化がおきているかもしれません。温暖化は阻止しなければいけません。

～～～～～～～～～～

‘わんりぃ’は、新入会をいつでも歓迎します。
年会費：1800 円、入会金なし
郵便局振替口座：00180-5-134011 わんりぃ
10 月以降の入会は、当年度会費 1000 円
■問合せ：044-986-4195（寺西）

‘わんりぃ’292 号の主な目次

寺子屋 四字成語(71)『千鈞一髪』・・・・・・・・ 2
「日译诗词」(39) 詩経「黍離」の嘆・・・・・・・ 3
「中原雑感」(40)　４年ぶりの河南省(続)・・ 4
古代中国の風流逸話『世説新語』(4)・・・・・ 6
「避暑山荘・外八廟」駆け足旅行(11)・・・・・ 8
「紅水河と清水河」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
村岡花子とNHK（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
「徒然なるままに」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
「中国の笑い話」(57)・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
みんなの広場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
‘わんりぃ’の催し・お知らせ・・・・・・・・・・ 18